流通とＳＣ・私の視点

2012 年 12 月 1 日

視点(1664)

（流通経済編）

米･日･韓･中の為替相場のメカニズム!!

2012 年 12 月 1 日現在の米国、日本、韓国、中国の相互の為替レートは次の通りです。

	為替レート	内　　容
1　ド　ル	82.43 円	
1 ユーロ	107.20 円	1 ドル当たり 1.30 ユーロ
1 人民元	13.11 円	1 元当たり 6.29 ドル、1 元当たり 13.11 円
1 ウォン	7,603 円(100 ウォン当たり)	1 ドル当たり 1,084 ウォン、1 円当たり 13.15 円

ドル基軸による米国、日本、韓国、中国の為替レート相場のメカニズムの算式は次の通りです。

1 ドル ＝ 1.30ユーロ ＝ 82.4円 ＝ 6.3元 ＝ 1,084ウォン

1 元 13.1円

1 円 13.2ウォン

為替レートは一定の時期の国際間の経済力によって決定されます。いわゆる「経済上のハンデ」に相当します。

日本は 1960 年代は 1 ドル 360 円、ニクソンショックの 1971 年時に 1 ドル 308 円になり、プラザ合意の 1985 年時に 240 円となり、1990 年に 120 円になり、1995 年には 70 円台になりました。その後、90～120 円時代を経て、2008 年頃には再び 70 円台（同時に史上最高の円高）になっています。今（2012 年 12 月 1 日は 1 ドル 82 円と若干の円安となっています)。実に、日本の為替レートは 360 円から 75 円まで 40 年間（1970～2010 年）に 4.8 倍の為替相場になっています。

同じく中国も 2005 年の 1 ドル 8.28 元から現在(2012 年 12 月 1 日)は 1 ドル 6.29 元まで 1.3 倍の為替相場になっています。

逆にアメリカは、ドル安政策を政策的かつ戦略的に行っています。また、韓国もウォン安を政策的かつ戦略的に行っています。アメリカのドル安は「金融政策上のドル安」であり、韓国のウォン安は「輸出政策上のウォン安」です。

この為替レートは、その国の経済力あるいは政策・戦略によって変化しますが、一方「購買力平価」による国際間のレートもあります。同じ品質・機能の商品を買う時にいくらで買えるかという次元で国際間で比較した時のレートを購買力平価で見ると次の通りです。

1 ドル＝102　円	現在の為替レートより 1.27 倍ドルの価値がある
1 円＝7.5 ウォン	現在の為替レートより 1.76 倍のウォンの価値がある
1 元 ＝ 7．6　円	現在の為替レートの 1.71 倍の元の価値がある

すなわち、アメリカで５万ドルの所得は、日本との為替レートでは 400 万円(80 円)ですが、購買力平価では 510 万円(102 円)の所得に相当します。

また、韓国で 350 万ウォンの所得は、日本との為替レートでは 26 万円(13.2 ウォン)ですが、購買力平価では 46 万円(7.5 ウォン)の所得に相当します。

さらに、中国で 5,000 元の所得は、日本との為替レートでは 6.6 万円(13.1 元)ですが、購買力平価では 11.2 万円(7.6 元)に相当します。

このように為替レートと購買力平価とは国際間の為替相場は異なりますが、為替レートはモダン消費経済の段階では「為替レート安」が輸出の強化のために必要ですが、ニューモダン消費経済（成熟経済）の段階では「為替レート高」が輸入増（海外からの輸入と海外の自国企業からの輸入）と海外投資のため必要となります。また、成熟経済の段階では為替レート高を活用した経済が成長します。

(株)ダイナミックマーケティング社[+6]
代　表　六（む）　車（ぐるま）　秀　之

Copyright (C) Dynamic Marketing Co. Ltd. 2012 All rights reserved.